

## 所員

## 専任教員

後藤 静夫 GOTOU Shizuo

役職：所長

専門：芸能史・文化史

藤田 隆則 FUJITA Takanori

役職：教授

専門：民族音楽学

山田 智恵子 YAMADA Chieko

役職：教授

専門：音楽学・三味線音楽・義太夫節

田井 竜一 TAI Ryuichi

役職：准教授

専門：民族音楽学・日本音楽芸能論

田鍬 智志 TAKUWA Satoshi

役職：准教授

専門：日本音楽史・民族芸能

竹内 有一 TAKEUCHI Yuuichi

役職：准教授

専門：日本音楽史・近世邦楽

## 非常勤講師

上野 正章 UENO Masaaki

担当：特別研究員

専門：音楽学

大西 秀紀 ONISHI Hidenori

担当：特別研究員

専門：近代芸能史

東 正子 HIGASHI Masako

担当：情報管理員

専門：デジタルコンテンツ制作、ネットワーク管理

前島 美保 MAESHIMA Miho

担当：特別研究員

専門：日本音楽史

三島 暁子 MISHIMA Akiko

担当：特別研究員

専門：日本音楽史

## 非常勤嘱託員

齊藤 尚 SAITOO Hisashi

担当：学芸員・司書

高久 直子 TAKAKU Naoko

担当：司書

## 招聘研究員

KLOBUKOVA, Natalia

ナタリヤ・クロブコヴァ

受入期間：2012年1月16日～12月15日

所属：モスクワ国立音楽院（主席研究員）

国籍：ロシア連邦

助成：国際交流基金日本研究フェローシップ

研究題目：明治期の伝統音楽文化の保存

受入教員：藤田隆則

## 共同研究員

計 37 名（所員を除く）。研究テーマ・氏名・所属先等は「活動報告 1」に記した。

## 展観



会場：日本伝統音楽研究センター 7 階展観スペース

内容：(1) 2012年4月10日～7月31日

「舞楽を描く一望月玉川旧蔵〔舞楽図〕（日本伝統音楽研究センター新収蔵資料）を中心として一〈第 2 期〉」

構成：三島暁子、齊藤尚

(2) 2012年8月1日～2013年3月31日

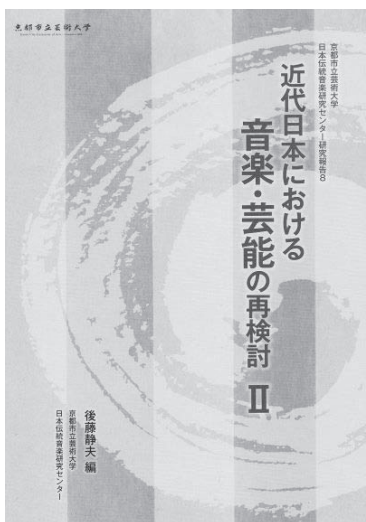
「琵琶と三味線—センター収蔵資料より—」

構成：齊藤尚（展示物に関する補足解説・音源データをWi-Fi接続により携帯端末向けに提供）

## 出版物 一書籍一

### 『近代日本における音楽・芸能の再検討Ⅱ』

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究報告 8、後藤静夫編



京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター発行、2012年3月31日、A4横組 146pp.

税込 1,300円

内容：「人形浄瑠璃・文楽の屋台の成立について」後藤静夫、「伝播する「小鍛治」

一京名所・寺社縁起・歌舞伎」末松憲子、「『平山晋吉』印のある『桐一葉』台本—演劇博物館蔵イロハ台帳に関する私見を含む」寺田詩麻、「水也田呑洲の琵琶講談」澤井万七美、「寄席の初期映画興行」上田学、「近代的芸術観と連鎖劇」横田洋、「長野県・黒田人形浄瑠璃における明治三年の「改革」について—上演組織の再編成」細田明宏、「所演曲拡大の時代—黒川能・演目分配協議と新曲登録合戦について」石山祥子、「近代に創造された民謡とメディアの位相—五箇山地方のお小夜節を中心として」川村清志、「あいだに生まれるもの—福田定良の「面白さ」という用語について」真鍋昌賢、「活人形復権の軌跡—年表で追う」土居郁雄、「菊人形の維持と継続をめぐる—「ひらかた市民菊人形の会」の活動から」竹原明理（平成23年度補遺）

### 『日本伝統音楽研究センター所報』第13号

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター編集・発行、2012年6月30日、A5横組 48pp. 非売品

## 出版物 一ビデオディスク一

### 『義太夫節 稀曲の復活』

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター編集・発行、2013年1月31日、ディスク1枚、付録：解説冊子・対談テキスト、税込1,000円（DVD版）／税込1,500円（Blu-ray版）

収録日時：平成23年（2011）12月19日（月）14時～16時30分、会場：京都府立文化芸術会館  
内容：Ⅰ 講演「『播州皿屋舗』の成立と上演史」（35:06）神津武男（早稲田大学高等研究所招聘研究員）／Ⅱ 対談「青山館の音楽的特徴と伝承及び復活の方法」（22:18）豊竹嶋大夫・竹澤團七、聞き手：山田智恵子／Ⅲ 「播州皿屋舗 青山館の段」（47:40）浄瑠璃：豊竹嶋大夫、三味線：竹澤團七（日本伝統音楽研究センター第32回公開講座「義太夫節 稀曲の復活」の記録映像）

### 『長唄の美と魅力—表現を生み出す力—』

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター編集・発行、2013年3月31日、ディスク1枚、税込1,000円（DVD版）／税込1,500円（Blu-ray版）

収録日時：平成23年（2011）9月4日（日）15時～17時、会場：京都市立京都堀川音楽高等学校 音楽ホール、司会：竹内有一、配川美加（東京芸術大学非常勤講師）、芸談：今藤政太郎、演奏：杵屋東成、今藤政太郎、藤舎呂悦、ほか

内容：Ⅰ 名曲を聴く1「越後獅子」（15:04）／Ⅱ トーク「今藤政太郎師に訊く—伝承力と表現力—」（21:17）／Ⅲ 名曲を聴く2「勸進帳」—芸談を交えて—（43:40）  
（日本伝統音楽研究センター第31回公開講座「長唄の美と魅力—表現を生み出す力—」の記録映像）

## デジタルアーカイブ

日本伝統音楽研究センターwebサイトにおいて、収蔵資料検索データベース、SP音源試聴コーナー、伝音アーカイブズ、プロジェクト・共同研究の報告、催事案内等を公開し、随時更新を行っている。2012年度末現在、「伝音アーカイブズ」の内容は、以下の通りである。（太字は今年度の新設分。）

コンテンツ内容	編著者
音楽文化新聞 記事索引	上野正章
祇園囃子アーカイブズ	田井竜一
桂地蔵前六斎念仏—その特質と伝承をめぐって—	田井竜一
画像資料にきく「祇園囃子」	田井竜一
胡弓に関する史料年表—16～17世紀—	竹内主催共同研究
町田嘉章草稿「常磐津演奏家芸歴列伝（仮題）」—解題と影印—	竹内有一
「正本を読む会」報告	竹内有一
箏曲・地歌の歌本	竹内有一
現代邦楽放送年表	長廣比登志
能の地拍子研究文献目録—単行本の部—	藤田隆則
『観世・大観世』目次一覧（大正12年1月—昭和19年3月）	藤田隆則
謡伝書の具体的理解と体系的把握へ向けた基礎作業	藤田隆則
日本伝統音楽研究の真髄に触れる—ゲストと所長による対談集—	所長、学術委員会

## 第34回公開講座



「題目立への誘い—中世芸能と神事の世界」

藤田隆則（企画・構成・司会）

平成24年度第1回公開講座

日時：平成24（2012）年10月6日（土）午後2

時～5時、会場：合同研究室1、参加費：1,000円

内容：◇第一部「奈良と中世芸能の伝承」、講演：西瀬英紀（国立文楽劇場）、沖本幸子（青山学院大学、芸能史）、時田アリソン（東京工業大学、音楽学）

◇第二部「インタビュー／ワークショップ」、出演：題目立保存会ほか

趣旨：日本の中世の語り物の姿を今に伝える貴重な神事であり、ユネスコ無形文化遺産である「題目立」（奈良県奈良市上深川町の八柱神社に伝わる民俗芸能の語り物）を取り上げます。

保存会や自治会の方々によるワークショップと専門家による講演を実施。本講座の一週間後に行われる神事を、より深く鑑賞したいと考えておられる方には絶好の機会です。

## 第35回公開講座



「黒御簾音楽を探る—芸談と資料研究—」

竹内有一（担当・司会）

平成24年度第2回公開講座

日時：平成25（2013）年2月3日（日）

午後2:00～4:30

会場：合同研究室1、参加費：1,000円

内容：◇第一部 講演「黒御簾音楽とその担い手」、土田牧子（東京藝術大学音楽学部非常勤講師）、前島美保、◇第二部 インタビュー・座談「杵屋巳太郎師にきく」ゲスト：八代目杵屋巳太郎（尾上菊五郎劇団音楽部 立三味線）

企画構成：竹内有一・土田牧子・前島美保・共同研究「歌舞伎の地方」

趣旨：歌舞伎の舞台進行を見計らいながら必要な音楽を適確に提供する「黒御簾音楽」（陰囃子）は、歌舞伎になくてはならない存在です。しかし、歌舞伎の長

唄と鳴物の専従者が伝承する特殊な分野であるため、その継承および研究の困難な領域とされています。本講座では、八代目杵屋巳太郎師をゲストに迎え、実演現場からの視点と、研究者による資料調査の成果を結びつけながら、黒御簾音楽の歴史・現状とその役割、東・西の差異等について探ります。

## でんおん連続講座



### 平成 24 年度 でんおん連続講座 A

「能の音楽の原型をさぐる—他のジャンルとの比較や演出資料を通じて—」 講師：藤田隆則

2012年4月25日 登場楽（その1）／5月9日 登場楽（その2）／5月16日 登場楽（その3）／5月23日 謡（その1）／5月30日 謡（その2）／6月6日 謡（その3）／6月13日 謡（その4）／6月20日 舞（その1）／6月27日 舞（その2）／7月4日 舞（その3）

全10回、10時40分～12時10分、会場：合同研究室1、受講料：5000円

趣旨：室町時代に成立した能は、現在でもよく演じられています。2時間にもおよび、力のこもった演技を、より面白く受けとめるためには、謡のテキスト、音楽構造、演出上のポイントを熟知していなければなりません。能の鑑賞歴・稽古歴は長くてもわかった気がしないと感じておられる方、日本を代表する文化の1つを深く学びたいと思われる方、ぜひ受講してください。今回は、登場楽、謡、舞などの原型を実践的になぞりつつ、把握していくを試みます。

### 平成 24 年度 でんおん連続講座 B

「義太夫節の音楽としてのしくみを理解する—文楽をより深く理解するために—」

講師：山田智恵子

2012年4月25日 義太夫節の音楽としてのしくみと一曲の構成／5月9日 「菅原伝授手習鑑」の全体構成／5月16日 「菅原伝授手習鑑二段目切 道明寺の段」その1 曲の構成／5月23日 「道明寺の段」その2／5月30日 「道明寺の段」その3／6月6日 「道明寺の段」その4／6月13日 「菅原伝授手習鑑四段目切 寺子屋の段」その1 曲の構成／6月20日 「寺子屋の段」その2／6月27日 「寺子屋の段」その3／7月4日 「寺子屋の段」その4 「いろは送り」を皆で一緒に語ってみよう  
全10回、13時～14時30分、会場：合同研究室1、受講料：5000円

趣旨：人形浄瑠璃文楽の音楽である義太夫節は、近年まで多くの人々にとって身近な音楽でした。しかし現在は、耳慣れない、長ったらしい、何をいっているかわからないと感じる人々が多くなっています。そこでこの講座では、音楽としての義太夫節にスポットをあて、受講者全員で詞章を音読した後、実際の演奏を聴いていきます。七五調の言葉のリズムと義太夫節の音楽表現を体感することで、一つ一つの言葉がいかに巧みに音の世界で表現されているかを理解し、文楽を耳からも楽しめるようになることを目指します。

### 平成 24 年度 でんおん連続講座 C

「雅楽よもやま噺—音と文字からのアプローチ—」

講師：田鍬智志、三島暁子

2012年10月17日 概説1：こんにちの雅楽とはことなる中古・中世雅楽の音楽・舞（田鍬）、概説2：雅楽を奏する意義とは（三島）／10月18日 「大曲」にまつわる話あれこれ—〈萬秋楽〉ほか—／10月24日 「童舞」にまつわる話あれこれ—〈迦陵頻〉ほか—／10月25日 「文舞」にまつわる話あれこれ—〈青海波〉ほか—／10月31日 「武舞」「走舞」にまつわる話あれこれ—〈陵王〉ほか—  
全10回、10時40分～12時10分・13時～14時30分、会場：合同研究室1、受講料：5000円  
趣旨：講師二人がそれぞれの研究立場から、雅楽のいくつかの楽曲にまつわる、あんな話・こんな話を繰り広げ、それぞれの時代における「雅楽が奏された意味・雅楽に託された意義」を考えます。

田鍬講師による講座では、平安末期や鎌倉期の古い楽譜から、その当時の雅楽の調べを再現し元来それぞれの曲が持っていた、情感を引き出します。

三島講師による講座では、古記録や音楽説話といった文字史料から、楽人の活動やその曲が受容されていた"場"の具体像を引き出します。

## 平成 24 年度でんおん連続講座 D

### 「歌舞伎音楽入門—江戸と上方—」

講師：竹内有一、前島美保

2013年1月15日 概説—歌舞伎音楽の多様性—、江戸と上方の往来1 / 1月22日 江戸と上方の往来2、黒御簾と囃子の役割 / 1月29日 台帳・附帳からわかること、東西歌舞伎の音楽演出  
全6回、10時40分～12時10分・13時～14時30分、会場：合同研究室1、受講料：3000円  
趣旨：東京の歌舞伎座が改築中のため、京阪での歌舞伎興行が増えています。この好機に歌舞伎とその音楽の魅力を見つめてみませんか。

歌舞伎とその音楽は、関西と関東を往き来しながら発展してきました。東西の気風がどのように交流しているのか、東西それぞれの特徴がどのように発揮されているのかを、音楽的な側面（種目、曲目、演奏、伝承者など）から探ります。

講師2名が前半と後半を分担します。なお、2月上旬に歌舞伎を支える演奏者をテーマに公開講座を開催予定です。その予習講座としてぜひご受講ください。

## 伝音セミナー

### 平成 24 年度伝音セミナー「日本の希少音楽資源にふれる」

趣旨：SPレコード等に残された迫力ある演奏を紹介し、昭和の時代には身近に存在していた雅楽、琵琶、浄瑠璃、民謡、わらべうた等に解説をくわえながら、歴史を振り返りつつ、これからの伝統音楽の方向を探っていきます。日本の伝統音楽などの市民講座に参加するのは初めてという方にも気軽に受講いただけるセミナーですので、多数の御参加をお待ちしております。

日時：2012年5月～2012年3月の全10回（原

則として第1木曜日）、午後2時30分～4時30分  
会場：合同研究室1、参加費：無料

（以下に、各回の担当者・趣旨等を記す）

#### ◇第1回 5月10日 大西秀紀

##### 「三世竹本大隅太夫の『熊谷陣屋』を聴く」

本学は平成23年度、千数百枚の義太夫節SPレコードの寄贈を受けました。まだ整理の段階ですが、平成24年度第1回の伝音セミナーはそれらの中から、明治期の義太夫節の名人三世竹本大隅太夫の米コロニア盤7枚組『一ノ谷熊谷陣屋』をお聴き頂きます。三味線は若き日の三世鶴沢清六です。

#### ◇第2回 6月7日 藤田隆則

##### 「謡の録音をきく」

この講座では何度か謡のSP録音を取り上げてきました。第2回講座も謡の様々な名人達に焦点をあてて、音源を聴いていきます。現在、日本伝統音楽研究センターでは、古い謡の姿を明らかにすることを目指す「京観世の記録化」という研究会を開催しています。講座では、研究会の主要メンバーを交えて、過去の謡にはどのような魅力があったのか、探りたいと思います。

#### ◇第3回 7月5日 大西秀紀

##### 「『寺子屋』のいろいろ」

『菅原伝授手習鑑』四段目切の「寺子屋の段」は、義太夫節の中の人気曲のひとつで、これまでも多くの演奏がレコード化されています。第3回は平成23年度の「でんおん連続講座B 義太夫節の音楽としてのしくみを理解する」とリンクするかたちで、SPレコードに残されたさまざまな「寺子屋」の聴き比べをいたします。

#### ◇第4回 9月6日 藤田隆則

##### 「能の囃子の録音をきく」

謡を引き立てるのが、笛や鼓や太鼓などの囃子の主たる役割です。囃子は陰の主役？ともいえます。伝音セミナーでは、何度か囃子の入った謡のSP録音を取り上げました。第4回も様々な名人達に焦点を当てて、音源を聴きます。「京観世の記録化」研究会の主要メンバーを交え、過去の囃子にどのような魅力があるのか、探りたいと思います。

#### ◇第5回 10月4日 前島美保

##### 「上方歌舞伎の録音を聴く—『雁のたより』—」

文政十三年（1830）大坂角の芝居のこの替り狂言「けいせい雪月花」にて上演された三代目中村歌右衛門（金沢龍玉）作「雁のたより」は、江戸後期上方歌舞伎の世話物を代表する作品として、代々上方の役者や囃子方の間に受け継がれてきました。今回は、大正四年（1915）に発売された初代実川延二郎（二代目延若）主演「雁のたより」のSPレコードを中心に聴きながら、上方らしい囃子とは何かについて考えてみたいと思います。

◇第6回 11月1日 竹内有一

「岡本文弥の新内節を聴く」

岡本文弥（1895～1996）は、古典の演奏のみならず、稀曲の復活、研究や啓蒙のための著作活動、作曲など多方面で活躍した新内節の功績者です。学生時代に東京の文化堂レコード店や演奏会場で落手した「文弥手作り私家版テープ」を使用し、名曲「明烏」などを聴きます。

◇第7回 12月6日 ナタリヤ・クロボコヴァ

（モスクワ国立音楽院首席研究員・日本伝統音楽研究センター招聘研究員）

特別講演「ロシアにおける日本音楽への関心」

近年、ロシアでの日本伝統音楽への関心が大きくなってきています。そのブームを牽引してきたのが、モスクワ国立音楽院の日本伝統音楽グループ「和・音」です。第7回では、ロシアでの日本伝統音楽の受容状況を、講師自身による体験談や箏・三味線の実演を交えながら紹介します。

◇第8回 1月10日 後藤静夫

「義太夫三味線の表現」

義太夫三味線は太夫の語りと共に「義太夫節」を演奏し、近世演劇としての「人形浄瑠璃」の舞台を形作ります。戯曲世界をリードするのは太夫の役割ですが、三味線は文章に表れない、場の雰囲気や描出、浄瑠璃の足取り等を弾き、最終的には「情」を表現します。義太夫三味線の独特の表現世界を演奏者自身の言葉も交え、稀少な音源を用いて探ってみます。

◇第9回 2月7日 田鍬智志

「昭和後期 " 現代音楽 " の発掘」

当センターの資料庫には、60年代～80年代に録音／発売された " 現代音楽 " のLPレコードが多数眠って

います。これらは、日本の作曲家作品の評論家、富樫康（1920～2003）氏旧蔵の資料です。第9回では、富樫氏旧蔵資料のなかから、日本人作曲家による昭和後期の作品、とくに和楽器を取り入れた作品や日本伝統音楽の音階やリズムを採り入れた作品を聴いてみます。

◇第10回 3月7日 大西秀紀

「祇園小唄の世界」

映画主題歌として昭和5年に生まれた「祇園小唄」は、数ある京都の唄の中でも古典といえます。「月はおぼろに東山一で始まるメロディーは、誰もが耳にしたことがあるのではないのでしょうか。しかしこの曲に続き、多くの「〇〇祇園小唄」が生まれたことは、今ではほとんど忘れられています。今回は「祇園小唄」の世界へ、皆さんをご案内いたします。

## 図書室

### 利用案内

#### (1) 収蔵資料と目録

- ・研究者、学生、市民に向けて、日本伝統音楽とその関連領域の書籍・視聴覚資料や情報を提供しています。折にふれ、資料の展覧などもおこなっています。（資料の種別：図書、展覧会図録、楽譜、逐次刊行物、視聴覚資料、その他日本伝統音楽に関する写本等）
- ・収蔵資料目録は、webサイトにおいてデータベース形式で公開しています。

#### (2) 図書室および収蔵資料を利用できる方

- ・本学の教職員（非常勤を含む）／学生
- ・調査研究のために利用を必要とされる方

#### (3) 開室日時と休室日

- ・開室日時 毎週水・木・金曜日  
10時～17時（12時～13時を除く）
- ・休室日 月・火・土・日曜日、「国民の祝日に関する法律」で定める休日、入学試験期間中・年末年始・棚卸及び保守点検等の業務上の必要期間 ※その他、必要に応じて、休室することがあります。最新情報はwebサイトでご確認ください。

#### (4) 利用できるサービス

○閲覧

- ・資料は閲覧室でのみご利用いただけます。書庫内資料をご利用になる場合は受付カウンターにお申し込みください。
- ・本学の教職員・学生以外への資料の貸出は行っていません。
- ・複写サービスは行っていません。

○視聴

- ・当室所蔵のCD・DVD・ビデオテープなどを視聴することができます。

○レファレンスサービス

- ・毎週水・木・金曜日 10時～17時（12時～13時を除く）

○その他

- ・本学教職員（非常勤講師を含む）及び本学学生のみ室外貸出を行っています。詳しくはwebサイトをご覧ください。

(5) 資料のデジタル化とweb公開

- ・一部の音源資料・貴重資料・研究成果等は、webサイトにおいて、デジタル化したものを公開しています。

## 京観世の記録化

研究代表者：藤田隆則

プロジェクト研究（継続）

共同研究員：荒木亮、上野正章、恵阪悟、大谷節子、大西秀紀、大山範子、五島邦治、高桑いづみ、高橋葉子、田草川みずき、中尾薫、長田あかね、丹羽幸江、味方健、宮本圭造

2011 年度に、共同研究として発足したこの研究会は、「京観世」すなわち京都で伝承されてきた観世流の謡の実態と文化史的背景を具体的に明らかにし、謡が身近であった文化の解明を目的としている。2012 年度より、プロジェクト研究として、共同研究員をふやし、活動を多角化した。ひとつの柱は、明治末期の京都日出新聞における芸能欄の記事を輪読することである。また、部会として、謡本の節付記号を詳細に比較し、江戸期の謡の実態をさぐる作業をおこなっている（ゴマ点部会）。また、京観世五軒家のひとつである岩井家の資料整理をおこなう部会ももうけている（資料部会）。これらの活動をつうじて、生活に密着した文化のひとつとして、謡の価値を見直すことをめざす。

時間：各回 13 時 30 分～ 17 時 場所：日本伝統音楽研究センター合同研究室（新研究棟 7 階）

2012 年	10 月 17 日（水）ゴマ点部会
5 月 9 日（水）ゴマ点部会	10 月 31 日（水）全体会
5 月 10 日（木）ゴマ点部会	11 月 1 日（木）全体会
5 月 30 日（水）ゴマ点部会	11 月 14 日（水）ゴマ点部会
6 月 6 日（水）ゴマ点部会	11 月 22 日（木）全体会
6 月 7 日（木）全体会 京観世の謡の録音をきく （伝音セミナーとの合同）	12 月 1 日（土）全体会
6 月 13 日（水）ゴマ点部会	12 月 8 日（土）全体会 東京文化財研究所にて
7 月 4 日（水）ゴマ点部会	12 月 9 日（日）全体会 東京文化財研究所にて
7 月 18 日（水）ゴマ点部会	12 月 25 日（火）全体会
8 月 1 日（水）ゴマ点部会	2013 年
8 月 30 日（木）ゴマ点部会	1 月 12 日（土）全体会（ゲスト：安田登氏、奥山けい子氏）
8 月 31 日（金）ゴマ点部会	1 月 20 日（日）全体会 福岡県みやま市にて
9 月 6 日（木）全体会 能の囃子の録音をきく （伝音セミナーとの合同）	2 月 13 日（水）ゴマ点部会
9 月 13 日（木）資料部会	2 月 14 日（木）資料部会
9 月 26 日（水）資料部会	2 月 21 日（木）資料部会
10 月 6 日（土）全体会 題目立への誘い （公開講座との合同）	3 月 7 日（木）ゴマ点部会／資料部会
	3 月 11 日（月）資料部会
	3 月 18 日（月）資料部会



## 三味線音楽の音楽様式研究—町田佳聲の旋律型研究を中心に—

研究代表者：山田智恵子

プロジェクト研究（継続）

共同研究員：大久保真利子（大坂芸術大学大学院芸術研究科研究員）、小塩さとみ（宮城教育大学准教授）、蒲生郷昭（東京文化財研究所名誉研究員）、久保田敏子（前センター所長・浄土真宗本願寺派仏教音楽・儀礼研究室室長）、龍城千与枝（早稲田大学大学院）、田中悠美子（くらしき作陽大学音楽学部非常勤講師）、寺田真由美（神戸大学大学院）、時田アリソン（東京工業大学外国語研究教育センター教授）、廣井榮子（相愛大学他非常勤講師）、吉野雪子（国立音楽大学非常勤講師）、竹内有一（センター准教授）

昨年度に引き続き、町田佳聲の旋律型研究のまとめを行った。町田の『三味線声曲における旋律型の研究』（東洋音楽学会編、以下学会校訂本と略す）は、三味線音楽における唯一無二の通ジャンルの音楽研究として、町田没後学会員の校訂により東洋音楽学会機関誌として刊行されたにもかかわらず、刊行後30年を経ても再検討すら行われてこなかった。しかし、町田自身も未定稿といっているように、この研究の再検討・再評価は後進の研究者に科せられた大きな課題であった。4年間の共同研究において、発見した自筆稿本をもとに資料批判を行い、学会校訂本を訂正・改訂すべき点を纏める作業がほぼ完成したので、その成果を東洋音楽学会第63回大会で共同発表した。

さらに、町田の旋律型研究の再評価、旋律型という用語や概念についての検討、三味線音楽各ジャンルの五線譜化の諸問題など、町田以後の世代である各研究者独自の視点による多様な研究発表が行われ、現時点での三味線音楽研究の諸相についてその一端を示すとともに、自身の専門以外の三味線音楽についても相互理解を深めることができたことがこの共同研究の大きなメリットであった。今年度の研究会の開催は以下のとおりである。

第1回研究会 2012年5月19日（土） 12:00-18:30 京都市立芸術大学新研究棟7階合同研究室

- (1) 今年度の研究計画
- (2) 研究発表 「資料紹介と比較表の凡例」 大久保真利子
- (3) 町田「三味線声曲における旋律型の研究」3本比較表データ検討 全員

第2回研究会 2012年5月20日（日） 10:30-17:30 合同研究室

- (1) 研究発表 「町田の義太夫節研究 その1」 山田智恵子
- (2) 研究発表 「町田佳聲の豊後系浄瑠璃研究」 時田アリソン
- (3) 研究発表 「三味線声曲における旋律型の研究における説明文言部分の検討」 寺田真由美
- (4) 次回以降の日程調整

第3回研究会 2012年6月17日（日） 11:00-18:30 合同研究室

- (1) 研究発表 「町田佳聲『三味線声曲における旋律型の研究』の再検証」 山田智恵子
- (2) 研究発表 「町田の端唄、うた沢、小唄研究」 寺田真由美
- (3) 研究発表 「町田の長唄・めりやす・歌舞伎下座・荻江節研究について」 小塩さとみ、大久保真利子
- (4) 研究発表 「町田の自筆稿本における本文見せ消し部分について」 寺田真由美
- (5) 次回の日程調整

第4回研究会 2012年8月25日（土）、26日（日）

作業部会 合同研究室

- ・3本比較表（エクセルデータ）統合点検作業 大久保真利子、寺田真由美、山田智恵子

第5回研究会 2012年8月27日(月) 11:00-20:00 合同研究室

・講習会 「楽譜作成ソフト Finale による三味線音楽楽譜の作成方法について 基礎編と応用篇」

講師 大久保真利子

第6回研究会 2012年8月28日(火) 10:30-17:30 合同研究室

(1) 研究発表 「ふし、曲節、旋律、旋律型、そして町田佳馨」その2 蒲生郷昭

(2) 研究発表 「義太夫節おける『ことば』と『ふし』」山田智恵子

第7回研究会 2012年9月16日(日) 11:00-18:00 合同研究室

(1) 研究発表 「『三味線声曲における旋律型の研究』の完成と邦楽調査掛」大久保真利子

(2) 研究発表 「町田佳馨の河東節研究」吉野雪子

(3) 研究発表 「長唄における旋律を考える」小塩さとみ

第8回研究会 2012年10月7日(日) 11:00-17:30 合同研究室

(1) 研究発表 「資料紹介とその統括としての比較表の作成」大久保真利子

(2) 研究発表 「『河東節を中心とする江戸浄瑠璃の旋律型』の検証」吉野雪子

(3) 研究発表 「町田の一中節研究について」田中悠美子

(4) 研究発表 「プロジェクト研究の概要・目的・研究方法」山田智恵子

第9回研究会 2012年10月28日(日) 10:00-17:30

東京工業大学大岡山キャンパス外国語研究教育センター大会議室

(1) 研究発表 「町田の義太夫節研究を読み解く」山田智恵子

(2) 研究発表 「資料紹介とその統括としての比較表の作成その2」大久保真利子

(3) 研究発表 「町田『河東節を中心とする江戸浄瑠璃の旋律型』の検証その2」吉野雪子

(4) 研究発表 「町田佳馨の『採譜』的思考—記憶・記録・実践のインターフェース」廣井榮子

第10回研究会 2012年11月11日(日) 9:00-18:00 国立音楽大学

東洋音楽学会第63回大会において「共同発表」13:40-15:10

・共同発表 「町田佳馨『三味線声曲における旋律型の研究』の検証」山田智恵子、大久保真利子、吉野雪子

①「共同研究の概要と目的および研究方法」山田智恵子

②「資料紹介とその統括としての比較表の作成」大久保真利子

③「河東節を中心とする江戸浄瑠璃の旋律型の検証」吉野雪子

④「町田の義太夫節研究を読み解く」山田智恵子

第11回研究会 2013年2月2日(土) 12:00-18:00 合同研究室

・比較表データの最終確認 全員

・報告書 内容確認 全員

第12回研究会 2013年2月3日(日) 10:30-18:00 合同研究室

・比較表データの最終確認 全員

・竹内准教授企画・竹内共同研究会メンバーによる第35回公開講座「黒御簾音楽を探る 芸談と資料研究」に参加。終了後杵屋巳太郎師との座談会に参加。

## 雅楽（舞楽）および関連芸能のいまとむかし

研究代表者：田鍬智志

共同研究（新規）

共同研究員：遠藤徹（東京学芸大学准教授）、上野正章（当センター非常勤講師）、齊藤尚（当センター図書室非常勤嘱託員）、田鍬智志、田村菜々子（京都市立芸術大学大学院・西本願寺仏教儀礼研究室研究助手）、出口実紀（大阪芸術大学大学院嘱託助手）、比嘉舞（奈良女子大学大学院）、前島美保（当センター非常勤講師・東京芸術大学音楽学部 教育研究助手）、増田真結（京都市立芸術大学大学院・神戸女学院大学非常勤講師）、三島暁子（当センター非常勤講師・上野学園大学日本音楽史研究所研究員）

雅楽は、千年以上もの伝承の過程で、紆余曲折を経ながらも、こんにちに伝えられてきたが、その音楽様式や芸態が、どのように変わってきたのであろうか。また各時代における、雅楽に対する宗教的・社会的意味付けが、音楽様式・芸態にどのような影響をおよぼしたのであろうか。各時代の楽譜・舞譜・楽書・図像史料・こんにちの中央/地方の伝承、などあらゆる史料にもとづいて、その解明に迫ってみたい。今年度は特に以下2点を重点的テーマとした。

- 1) 平安末～鎌倉時代の楽譜史料にもとづく再現演奏の試み
- 2) 近代楽書史料にみる雅楽用語の定義づけから、その時代性をさぐる。

第1回研究会 2012年6月17日（日）

場所：本センター 801 研究室

歴史民俗博物館蔵辻家雅楽関係資料の概要と今後の方針について（遠藤）

第2回研究会 2012年7月14日（土）

場所：本センター 801 研究室

平安末・鎌倉時代の楽譜史料にもとづく再現演奏の試み—今年度の計画について（田鍬）

第3回研究会 2012年8月19・20日（日・月）

場所：国立歴史民俗博物館

歴史民俗博物館蔵辻家雅楽関係資料の閲覧と研究対象資料の選定について（遠藤）

第4回研究会 2012年9月4日（火）

場所：本学講堂

平安末・鎌倉時代の楽譜史料にもとづく再現演奏の試み—器楽の再現—第一回

第5回研究会 2012年9月11日（火）

場所：合同研究室 1

平安末・鎌倉時代の楽譜史料にもとづく再現演奏の試み—器楽の再現—第二回

第6回研究会 2012年9月18日（火）

場所：本学講堂

平安末・鎌倉時代の楽譜史料にもとづく再現演奏の試み—器楽の再現—第三回

第7回研究会 2012年10月12日（金）

場所：合同研究室 1

平安末・鎌倉時代の楽譜史料にもとづく再現演奏の試み—器楽の再現—第四回

第8回研究会 2012年11月2日（金）

場所：合同研究室 1

平安末・鎌倉時代の楽譜史料にもとづく再現演奏の試み—声歌の再現—第一回

第 9 回研究会 2012 年 11 月 16 日 (金)

場所：合同研究室 1

平安末・鎌倉時代の楽譜史料にもとづく再現演奏の試み—声歌の再現—第二回

第 10 回研究会 2012 年 11 月 23 日 (金祝)

場所：合同研究室 1

平安末・鎌倉時代の楽譜史料にもとづく再現演奏の試み—声歌の再現—第三回

第 11 回研究会 2013 年 2 月 23 日 (土)

場所：浄見原神社および黒住教国栖教会所 (奈良県吉野町南国栖)

検討会：雅楽関連芸能の伝承実態とその芸態について—国栖奏の場合—

## 歌舞伎の地方 (じかた) —伝承と演出、歴史と現在—

研究代表者：竹内有一

プロジェクト研究 (継続)

共同研究員：赤間亮 (近世文学、立命館大学教授)、マーク大島 (歌舞伎研究、清元節演奏家)、大西秀紀 (近代芸能史、本センター非常勤講師)、児玉竜一 (近世文学、早稲田大学教授)、鈴木英一 (近世文学、聖学院大学非常勤講師)、田口章子 (近世文学、京都造形芸術大学教授)、武内恵美子 (日本音楽史、秋田大学准教授)、土田牧子 (日本音楽史、東京芸術大学博士後期課程)、配川美加 (日本音楽史、東京芸術大学非常勤講師)、前島美保 (日本音楽史、本センター非常勤講師)、前原恵美 (日本音楽史、有明教育芸術短期大学准教授)

音楽と音がなければ、歌舞伎は幕を明くことができない。歌舞伎における音楽の担い手は、「地方 (じかた)」と通称され、単なる演奏家とは異なった、独特の役割や技術を有する。彼らが果たしてきた役割の歴史の変遷、音楽的意義、演劇・舞踊との関わり方等を考察するために、いくつかの課題を設定して、個人または共同による調査・研究・意見交換・取材・それらの公開を行う。地方やその音楽の将来へ向けた展望も視野に入れ、実演・制作の関係者との提携も重視する。

今年度は、黒御簾音楽 (下座音楽) の演奏実態と、江戸期の常磐津節演奏者の経歴研究に焦点を当てた。前者の成果の一部は、第 13 回研究会と合同開催した公開講座において発表し、後者の成果の一部は常磐津節保存会発行の調査報告書 (竹内有一編著『常磐津節演奏者名鑑』第 2 巻以降) において公開される。

また、平成 22 年度から平成 24 年度の研究成果の一部は、(社) 伝統歌舞伎保存会編『平成 24 年版 歌舞伎に携わる演奏家名鑑』(平成 24 年 11 月、(社) 伝統歌舞伎保存会) において、鈴木英一「歌舞伎音楽概説—特徴とその演奏家—」、竹内有一「歌舞伎の演奏者を知るための興行資料」、大西秀紀「歌舞伎音楽のレコード—長唄研精会を中心に—」、土田牧子・前島美保「文献資料—覧」として公開した。その他の成果については、本紀要の第 11 号以降に掲載する予定である。

第 1 回研究会 2012 年 7 月 24 日 (火) 13:00

— 17:00、場所：805 研究室

常磐津節の演奏者に関する資料調査の現況をめぐって その 1

第 2 回研究会 2012 年 9 月 14 日 (金) 14:00

— 17:00、場所：805 研究室

常磐津節の演奏者に関する資料調査の現況をめぐって その 2

第3回研究会 2012年9月18日(火) 13:00  
- 18:00、場所:805研究室

黒御簾音楽研究の現況と課題 その1

第4回研究会 2012年10月4日(木) 12:00  
- 19:00、場所:805研究室・合同研究室1

黒御簾音楽研究の現況と課題 その2

第5回研究会 2012年11月5日(月) 14:00  
- 18:00、場所:805研究室

黒御簾音楽研究の現況と課題 その3

第6回研究会 2012年11月6日(火) 12:00  
- 17:00、場所:永楽館(豊岡市出石町)ほか

関西歌舞伎の黒御簾音楽をめぐって

第7回研究会 2012年12月11日(火) 12:00  
- 16:00、場所:805研究室・合同研究室1

黒御簾音楽研究の現況と課題 その4

第8回研究会 2012年12月28日(金) 13:00  
- 17:00、場所:805研究室

黒御簾音楽研究の現況と課題 その5

第9回研究会 2013年1月15日(火) 15:00

- 19:00、場所:805研究室、合同研究室1

黒御簾音楽研究の現況と課題 その6

第10回研究会 2013年1月16日(水) 14:00  
- 17:00、場所:805研究室

黒御簾音楽研究の現況と課題 その7

第11回研究会 2013年1月21日(月) 13:00  
- 17:00、場所:805研究室

黒御簾音楽研究の現況と課題 その8

第12回研究会 2013年1月30日(水) 13:00  
- 17:00、場所:805研究室

黒御簾音楽研究の現況と課題 その9

第13回研究会 2013年2月3日(日) 10:00  
- 21:00、場所:合同研究室1・合同研究室2ほか

黒御簾音楽研究の現況と課題 その10。

第35回公開講座「黒御簾音楽を探る—芸談と資料研究—」および山田智恵子教授主催プロジェクト研究との合同開催。公開講座開催前および終了後において、公開講座ゲストの杵屋巳太郎師を囲んで、伝承実態に関する聞き取り調査と意見交換を行った。

## 上野 正章「日本伝統音楽研究のアウトプット編成とアーカイブ構築」

本年度は、近代京都の音楽文化研究と音楽の独学の研究を中心に研究を進め、また、当センター学術委員会への業務協力・研究協力を随時行った。四半期ごとに研究の概略を記し、研究成果を示すことにしたい。

まず、4月から6月にかけて集中的に行ったのが『京都日出新聞』の調査である。新聞記事から20世紀前半の京都市においてどのような音楽文化が営まれていたのかということを経験的に明らかにするために平成23年度から継続的に調査を実施しているのだが、昨年度に明治30年代の新聞を調査したのに引き続いて今年度は明治40年代を調査して音楽関連記事を収集した。振り返り、世紀の変わり目の京都の音楽文化がだいぶ解明されてきたように思う。

現在、最良のデータの提示の方法を考察中である。全文検索の利便性を考えて記事をスキャンしてOCRソフトによって電子データ化することを試みたのだが、誤認識が続出して実用的なレベルに達することができなかった。早急に代案を考えたい。

なお、調査の途上で「写生廿四時」という連載記事を発見した。駅、公園、商店街、通り等々、京都において24地点を取り上げ、そこで一時間に亘って見聞した状況をあたかも写生するように文章で表現するという特集記事である。五感を使って綿密に観察し丁寧に表現されているので、明治期末の京都のサウンドスケープが手に取るようにわかる。明治期の音環境がここまで細かく記されているまとまった文章は非常にまれなので、直ちに調査をまとめて日本サウンドスケープ協会の研究発表会で報告した。

7月から取り組んだのが音楽の独学の研究 (<http://kaken.nii.ac.jp/d/p/24520155.ja.html>) である。近代日本における西洋音楽の普及における独学の果たした役割を明らかにする研究であり、まず、独習書に関して図書館の運営するインターネットのオンライン目録や冊子目録で調査を行った。なお、研究途上でしばしば見出されたのが、日本伝統音楽の独習書である。師匠について稽古して身につけるのが一般的な日本伝統音楽において、こういった書物はどのように利用されたのだろうか。将来的に研究したいと考えている。

10月以降は新聞資料の研究と京観世の共同研究がリンクし、近代京都における謡の実態を明らかにする研究に従事した。研究会で発表させていただく機会にも恵まれた。日程は後述の記録の通りである。共同研究で謡関連の新聞記事を読み進めていく試みは、大きな成果があった。碩学を交えてグループで記事を読むことは、いわばインタビューと資料研究を同時に進めていくようなものであり、多くの貴重な情報を得ることができた。なお、この研究は、当然のことながら、謡の十分な理解が要求される。結局、初歩から謡を学び始めることになっていった。成人してからの新しい習い事はいろいろ難所があったが、高度に洗練された古典音楽は、大きな喜びを与えてくれた。また、付随して日本伝統音楽に関して理解が深まったように感じる。

1月からは、再び音楽の独学の研究に取り組んだ。積極的に出張して、全国の図書館をめぐり、資料の収集に励んだ。また、過去に日本伝統音楽研究センターで行われた仕事をweb公開のために最適化するデータベース整備作業も並行して行った。現在のところ完了したのは、井澤壽治による「上方座敷歌の研究」および、伊野義博「地方舞楽における唱歌と身体表現に関する研究 能生町白山神社舞楽泰平楽・森町小國神社十二段舞楽太平楽を中心に」である。

その他、本年度は共同研究の一環で、歴史民俗博物館で資料調査の機会を得た。自身の研究にも還元することができればと思っている。また、国栖舞、幸若舞を調査する機会も得た。天候に恵まれ、良好に録音や録画する

ことができました。主に文献研究に基づいて研究を展開してきたため、フィールドワークは研究の良い刺激になった。

なお、本年は過去4年間に亘って実施された本学共同研究「歌と語りの言葉とふしの研究」の集録が刊行された。ささやかながら協力させていただいた仕事が形になったことを大変うれしく思う。

◆関連する本

- \* 「歌と語りの言葉とふしの研究」(藤田隆則・上野正章編)、日本伝統音楽研究センター研究報告7。

◆関連する研究発表

- \* 2012年5月19日『京都日出新聞』に連載された『写生廿四時』から聴いた明治期末の京都のサウンドスケープ、2012年度日本サウンドスケープ協会春季研究発表会、関西大学。
- \* 2012年9月6日『京都日出新聞』に掲載された能と謡に関する記事を読む、プロジェクト研究 京観世の記録化 全体会、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター。
- \* 2012年10月6日『京都日出新聞』に掲載された能と謡に関する記事を読む、プロジェクト研究 京観世の記録化 全体会、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター。
- \* 2012年10月31日『京都日出新聞』に掲載された能と謡に関する記事を読む、プロジェクト研究 京観世の記録

化 全体会、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター。

- \* 2012年11月22日『京都日出新聞』に掲載された能と謡に関する記事を読む、プロジェクト研究 京観世の記録化 全体会、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター。
- \* 2012年12月1日『京都日出新聞』に掲載された能と謡に関する記事を読む、プロジェクト研究 京観世の記録化 全体会、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター。
- \* 2012年12月9日『京都日出新聞』に掲載された能と謡に関する記事を読む、プロジェクト研究 京観世の記録化 全体会、東京文化財研究所。
- \* 2012年12月25日『京都日出新聞』に掲載された能と謡に関する記事を読む、プロジェクト研究 京観世の記録化 全体会、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター。

## 大西 秀紀「平成24年度伝音セミナー使用曲」

平成24年の「伝音セミナー 日本の希少音楽資源にふれる」について、報告者は第1、3、10回の計3回を担当した。各回の内容は次の通りである。

### ■第1回 三世竹本大隅太夫の『熊谷陣屋』を聴く 2012.5.10

当センターは2011年度に千数百枚の義太夫節SPレコードの寄贈を受けたが、それらの中から明治期の名人三世竹本大隅太夫の大変珍しい米コロンビア盤『一ノ谷熊谷陣屋』と、併せてこれもまだCD化されていないビクター盤『寿式三番叟』をお聴きいただいた。

○義太夫 寿式三番叟

2 豊竹古靱太夫、他〈浄瑠璃〉、1 鶴沢道八、他〈三味線〉  
ビクター 5878-5884  
(7枚14面、昭和17年8月発売)

○義太夫 一ノ谷熊谷陣屋

3 竹本大隅太夫〈浄瑠璃〉、3 鶴沢清六〈三味線〉  
米コロンビア 2878-A ~ G  
(7枚7面、明治39年録音カ)

### ■第3回 「寺子屋」のいろいろ 2012.7.5

この回は2012年度「でんおん連続講座B 義太夫節の音楽としてのしくみを理解する」とリンクするかたちで、義太夫節の人気曲『菅原伝授手習鑑』四段目切の「寺子屋の段」を、六組の太夫・三味線の演奏によるリレー形式でお聴きいただいた。

- 2 豊竹古靱太夫〈浄瑠璃〉、3 鶴沢清六〈三味線〉  
ニッポ 83-89、155-158 (大正10年4月発売)より【レコード番号 83-A ~ 85-B を使用】
- 4 竹本大隅太夫〈浄瑠璃〉、1 鶴沢道八〈三味線〉

- ビクター 50640-50643 (昭和4年3月発売)より【レコード番号 50640-A ~ 50641-A を使用】
- 3 竹本津太夫〈浄瑠璃〉、4 鶴沢叶〈三味線〉  
コロムビア 35137-35145 (昭和6年4月発売)より【レ

- コード番号 35140-A ~ 35142-A を使用】
- 9 竹本染太夫〈浄瑠璃〉、4 豊沢広作〈三味線〉
  - ライロホン 70843-70850 (明治 43 年 11 月録音) より【レコード番号 70843 ~ 70845 を使用】
  - 3 竹本南部太夫〈浄瑠璃〉、4 豊沢猿糸〈三味線〉

- シンホニー 19-26 (明治 43 年 5 月発売) より【レコード番号 20 ~ 23 を使用】
- 2 豊竹つばめ太夫〈浄瑠璃〉、4 豊沢仙糸〈三味線〉
  - タイハイ 56278-56279 (昭和 10 年 7 - 8 月発売カ) より【レコード番号 56278-B ~ 56279-B を使用】

## ■第 10 回 「祇園小唄」の世界 2013.3.7

映画主題歌として昭和 5 年に生まれた「祇園小唄」は、数ある京都の唄の中の代表曲といえよう。しかしこの曲に続き、多くの「〇〇祇園小唄」が生まれたことはほとんど知られていない。この回はオリジナルの成立についてご説明しつつ、こうした「祇園小唄もの」を多数ご紹介した。

- 映画小唄 祇園小唄
  - 二三吉〈唄〉
  - ビクター 51037 (昭和 5 年 1 月発売)
- 新内三味線 流し (部分)
  - 富士松菊三郎〈三味線、上調子〉
  - デンオン WF - 7007 - ND (LP)
- 端唄 京の四季
  - 祇園初太郎〈唄〉
  - ビクター 50336 (昭和 3 年 6 月発売)
- 京舞 祇園小唄 (部分)
  - DVD『日本の美 京の真髄 京都祇園弥栄会館ギオンコーナー』(財) 京都伝統技芸進行財団 (おおきに財団) より
- 祇園小唄
  - 葎町二三吉〈唄〉
  - コロムビア 25804-A (昭和 5 年 4 月発売)
- 祇園小唄
  - 祇園品千代〈唄〉
  - ショーワ 722-B (昭和 5 年発売カ)
- 新作祇園小唄
  - 岩田正〈唄〉
  - ショーワ 878-A (昭和 5 年発売カ)
- 新祇園小唄
  - 京極英子〈唄〉
  - タカシマヤ 5011A (昭和 5-8 年発売カ)
- 祇園新小唄
  - 南地 金龍〈唄〉
  - タイハイ 3050-B (昭和 6 年 7 月発売)
- 新祇園小唄
  - 藤本二三吉〈唄〉
  - ビクター 52349-B (昭和 7 年 8 月発売)
- 祇園恋しや
  - 市丸〈唄〉
  - ビクター 52696-A (昭和 8 年 6 月発売)
- 祇園ながし
  - かね本 幾松〈唄〉
  - タイハイ 4450-B (昭和 9 年 4 月発売)
- 新祇園小唄
  - 葎町藤本二三吉〈唄〉
  - コロムビア 27824-B (昭和 9 年 5 月発売)
- 新版祇園小唄
  - 豆千代
  - コロムビア 30242-A (昭和 14 年 6 月発売)
- タンゴ 祇園小唄
  - 東京フロリダ・ダンス・ホール巴里ムーラン・ルージュ楽員
  - コロムビア 27296-A (昭和 8 年 3 月発売)
- 尺八琴合奏 祇園小唄
  - 田中允山〈尺八〉、1 米川敏子〈箏〉
  - コロムビア 100441 (昭和 17 年 4 月発売)
- 祇園小唄
  - 朝丘雪路〈唄〉
  - 東芝 JP-1260 (昭和 36 年発売カ)
- 「京炎そでふれ！」の祇園小唄 (2008 年 2 月 3 日、山科夢舞台)
  - <http://www.youtube.com/watch?v=AVGDIGNNRsc>

### ◆関連する口頭発表

- \* 2012.08.21 大西秀紀「音声資料に対する共通認識のために」、研究プロジェクト「東アジア古典演劇の「伝統」と「近代」—「伝統の相対化」と「文化」の動態把握の試み—、国際高等研究所
- \* 2013.02.24 大西秀紀「大阪の声と唄」、大阪芸能懇話会、難波生涯学習センター

### ◆関連する講演

- \* 2012.11.29 大西秀紀「義太夫節 SP レコードを聴く会」、国立文楽劇場
- \* 2013.03.21 大西秀紀「音源解説：邦楽の近代」『デジタル化資料活用研修会』、国立国会図書館関西館

### ◆関連する執筆

- \* 2012.07 大西秀紀「歌舞伎音楽のレコード 長唄研精会を中心に」『歌舞伎に携わる演奏家名鑑』、平成 24 年版、(社) 伝統歌舞伎保存会、pp.33 ~ 40
- \* 2013.02 大西秀紀「私のこの一冊」『演劇界』、2 月号、演劇出版社、pp.138
- \* 2013.02 大西秀紀「会社別 歌舞伎音楽 SP レコード・ディスクグラフィ」『黒御簾音楽を探る 芸談と資料研究』、日本伝統音楽研究センター第 35 回公開講座配付資料、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、pp.39
- \* 2013.02 大西秀紀「二世豊竹古靱太夫の伊賀八」『二世豊竹古靱太夫 (山城少掾) 伊賀越道中双六 岡崎の段』CD リーフレット、日本コロムビア CDCJ-37883 ~ 4
- \* 2013.03 大西秀紀「邦楽の近代—義太夫節を中心に—」



## 前島 美保「近世後期歌舞伎音楽の東西交流に関する研究—長唄を中心に—」

江戸時代、京・大坂・江戸の三都を中心に発達した歌舞伎は、江戸下りを中心に初期より役者や狂言作者の交流が盛んに行われていたことで知られるが、元禄期頃からは三都の歌舞伎がそれぞれ独自の特色を持つようになったとされる。音楽面を支えた囃子方（唄・三味線・鳴物の演奏家）もまた東西劇壇を往来し、音楽演出上双方向で影響を与え合ってきたと考えられるが、従来概して江戸歌舞伎中心に語られ、上方、なかでも十八世紀については各種番付等の史料的裏付けをもって解明されてこなかった。以上の問題意識から、私は平成 23 年度に博士論文「十八世紀上方歌舞伎音楽の研究—囃子方を中心に—」を執筆し、東京芸術大学に提出した。

今年度はこの博士論文の中から、十八世紀後半（宝暦から天明期）の歌舞伎囃子方の東西交流とそれがもたらしたものについて、発展的に加筆修正を施し、本センター紀要にて発表した。詳細はそちらを参照されたいが、要点をまとめると、当該期には四十二名の囃子方の東西往来を確認することができ、とりわけ江戸の囃子方（中村兵蔵、杵屋忠次郎、湖出市十郎、鈴木万里等）が役者に随伴して上方に移動・定住し、舞台に出演を重ねることにより、上方における江戸化の方向性（長唄呼称の定着、長唄正本・詞章付き史料の版行等）が決定づけられていったことが明らかとなった。こうした影響関係は、上方が江戸に影響を与えていた十八世紀前半とは対照的であり、「文化東漸」と言われる時代のダイナミズムを端的に表しているのではないか、という見解を示した。

続く十九世紀は、三代目中村歌右衛門をはじめとする変化舞踊の上演に伴い、東西交流がより顕著となる時代に入る。文化元年大坂でのチリカラ連（素人連）による長唄の流行（『摂陽奇観』）や現行上方舞のうち歌舞伎由来とされるものの多くは、この時期の東西交流によってもたらされたものと考えられ、現在の上方歌舞伎由来の文化や伝承に直接的に関わり合ってくる。広く上方文化の歴史を考える上でも、江戸後期歌舞伎音楽の東西交流に関する実態把握は極めて重要であると思われる。今後も引き続き、史料と伝承から探ってゆきたい。

\*

本センター内での活動としては、平成 24 年度第 5 回伝音セミナー「上方歌舞伎を聴く—「雁のたより」—」、平成 24 年度でんおん連続講座 D「歌舞伎音楽入門—江戸と上方—」、第 35 回でんおん公開講座「黒御簾音楽を探る—芸談と資料研究—」を担当し、上記の研究課題について、少し視点や対象を広げて提供することに努めた。例えば、芝居小屋が描かれた屏風絵や舞台図、歌舞伎上演にあたって基礎となる事柄を記した台帳（台本）や音楽演出のみを書き出した附帳、明治大正昭和期の SP・LP レコードなど様々な史料を基にしながら（SP レコードは大西秀紀氏にご提供いただいた）、歌舞伎を鑑賞し、上方歌舞伎音楽の特徴に迫った。私自身まだ手探りの面もあったのだが、受講者の方々より率直なご意見やご質問を頂戴し、改めて気付かされることも多く、大変有意義な時間を過ごさせていただいたと深く感謝している。学会や研究集会はもとより、こうした一般に開かれた場での公表・発信（とくに研究対象が育まれた地域への還元）に、今後とも積極的に努めて参りたい。末筆ながら、でんおん公開講座に特別出演していただいた八代目杵屋巳太郎師、ならびに企画・編集等でお世話になった竹内有一氏、土田牧子氏に篤く御礼申し上げる。

- 一」第35回公開講座パンフレット、日本伝統音楽研究センター、63頁
- \* 2013.02.03 発表レジュメ「上方歌舞伎の黒御簾音楽研究について」、『黒御簾音楽を探る—芸談と資料研究—』第35回公開講座パンフレット、日本伝統音楽研究センター、10～14頁
  - \* 2013.06（予定）論文「歌舞伎囃子方の東西交流—宝暦から天明期にかけて—」、日本伝統音楽研究センター研究紀要『日本伝統音楽研究』第10号
  - ◆関連する口頭発表
    - \* 2012.06.02 博士論文発表「十八世紀上方歌舞伎音楽の研究—囃子方を中心に—」、東洋音楽学会東日本支部第65回定例研究会、東京芸術大学
  - ◆講義・講座等
    - \* 2012.10.04 平成24年度第5回伝音セミナー「上方歌舞伎を聴く—「雁のたより」—」、日本伝統音楽研究センター
    - \* 2013.01.15・22・29 平成24年度でんおん連続講座D「歌舞伎音楽入門—江戸と上方—」、全6回（後半3回担当）、日本伝統音楽研究センター
  - \* 2013.02.03 第35回公開講座「黒御簾音楽を探る—芸談と資料研究—」の企画・講演、日本伝統音楽研究センター
  - ◆史料調査・現地調査
    - \* 2012.07.30 松竹大谷図書館附帳調査
    - \* 2012.08.07, 10.02, 11.21, 2013.01.13 国立劇場蔵杆屋富造附帳調査
    - \* 2012.09.17 阪急学園池田文庫蔵台帳調査
    - \* 2012.11.06 出石永楽館現地調査・「第5回永楽館歌舞伎」見学
    - \* 2012.12.21 早稲田大学演劇博物館関連史料調査
    - \* 2013.01.11 東京芸術大学附属図書館長唄史料調査
  - ◆その他
    - \* 2012.10.24 「関西の音と人」大阪日日新聞朝刊、平成24年度第5回伝音セミナー「上方歌舞伎の録音を聴く—「雁のたより」—」の取材（齋藤桂氏）
    - \* 2012.11.15 土田牧子・前島美保「文献資料一覧」、社団法人伝統歌舞伎保存会編『平成24年版歌舞伎に携わる演奏家名鑑』、227～261頁

### 三島 暁子「楽人記録の研究—〔豊原信秋記〕を中心として—」

昨年度より引き続き、楽家豊原氏の南北朝・室町時代の活動、および〔豊原信秋記〕について、古記録などから史料収集を行なった。当該期の豊原氏は大きく二流の家に分かれて活動を行っていたが、本年は信秋の流れとは異なるもう一方の豊原家の活動の様子について着目した。

豊原信秋は豊原家の嫡流と位置づけられる流れだが、もう一方の庶流のキーマンとして室町時代に活動した人物に豊原郷秋がいる。郷秋は持明院統伏見宮貞成に仕えたため、貞成の記した『看聞日記』には断片的ながらその動向が記されている。周知のように、『看聞日記』は持明院統の楽に関わる重要史料として早くから注目されてきた史料だが、貞成親王の楽に関わる分析に用いるだけでなく、豊原郷秋をはじめとする地下楽人の活動を知る手がかりとしても有効な史料といえる。結論から言えば、伏見宮家を象徴する持明院の楽統継承とは、単に貞成個人が琵琶稽古に励みさえすれば果たせるといった単純なものではなかったのである。貞成の琵琶を中心とする楽の場を運営することまでが楽統の継承に含まれていたといえ、当然のことではあるが、そのためには地下楽人の下支えが必要不可欠であったといえる。この度は、貞成親王の音楽活動を明らかにしてゆく視点とは別に、『看聞日記』から室町時代における地下楽人の諸相の一端を引きだす試みとして、伏見宮家にとっての奏楽を支える地下楽人の役割、楽家に生じる嫡流庶流の具体像といった視点から考察を行った。特に、重奏層的なものであった楽人の主従関係について、その具体像を引き出すことに主眼を置いた。

\*

でんおん連続講座C「雅楽よもやま噺—音と文字からのアプローチ—」（全10回のうち三島担当5回）は、田鍬智志准教授と共に担当した。広く雅楽への関心と理解を深めていただくための試みとして、「雅楽」という研究分野への多様なアプローチの可能性を示そうという企画であった。三島担当回では、古記録や音楽説話といった文字史料から、楽人の活動やその楽曲が受容されていた場の具体像を引き出すことを主眼とした。史料紹介のほかにも音源・映像も用いたため、駆け足の進行となり、質疑の時間を設けられなかった点が残念である。また、担当両名によるディスカッションなどを盛り込んでみても良かったかもしれない。こうした点は次の機会に生かしてゆきたいと思う。

日本伝統音楽研究センター展覧では、平成23年度末に担当した「〔舞楽〕を描く（第一期）」の展示史料を入れ替えて、「〔舞楽〕を描く（第二期）」を企画した（当センター資料室の齋藤尚学芸員と共同）。この度の中心資料は、本学名誉教授の望月重延氏より当センターにご寄贈いただいた望月玉川旧蔵〔舞楽図〕である。新収蔵資料の紹介として関連の舞楽資料とともに初めて全場面を公開した。芸術資料館のご協力にも感謝したい。

望月家は日本画において望月派の派祖となる望月玉仙（1692～1755）より代々続く絵師の家で、玉川（1794～1852）は玉仙の子息である。また、本学の前身である京都府画学校の設立（明治13年：1880）に関わり、その後も教員として後進の指導に尽くされた望月玉泉の父が玉川である。江戸時代の舞楽の絵手本である本資料には、現行の舞楽では行われない舞の所作も描かれており、興味深い。また、絵手本という性格から、細かな彩色の指示や装束・文様に関する注記が記されており、音楽・美術の両方面から興味の尽きない資料といえる。

\* 望月玉川旧蔵〔舞楽図〕は平成21年3月に定年を迎えられるまで本学の美術学部教授として後進の育成に尽力された、子孫の望月重延氏により、日本伝統音楽研究センターに寄贈された。

◆今年度の活動

- \* 共同研究「〔研究代表者：田鍬智志〕〔雅楽（舞楽）および関連芸能のいまとむかし〕に関わる活動。
- \* 2011.04.10～07.31 日本伝統音楽研究センター展覧「〔舞楽〕を描く―（日本伝統音楽研究センター新収蔵資料）

望月玉川旧蔵〔舞楽図〕を中心として（第二期）一」

担当：三島暁子、齋藤尚

- \* 2012.10.17・18・24・25・31（全10回）でんおん連続講座C「雅楽よもやま噺一音と文字からのアプローチ」担当：田鍬智志、三島暁子

## 後藤 静夫

## ◆著作活動

- \* 2012・03・31 編著書：後藤静夫編『近代日本における音楽・芸能の再検討Ⅱ』、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究報告 8、京都、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、146pp
- \* 2012・03・31 論文「人形浄瑠璃・文楽の屋台の成立について」(同上所収)、p.1～14 (平成 23 年度補遺)
- \* 2012・06・10 提言「問われているものは」、『上方芸能』184号 (特集 文楽を守れ) pp.65～66
- \* 2012・07・25 項目執筆「国立文楽劇場」「御霊文楽座」「朱(譜)」「竹本座」「豊竹座」「人形浄瑠璃」「文楽の研究」「丸本」「床本」「四ツ橋文楽座」「石割松太郎」「釜淵双級巴」「刈萱桑門筑紫轢」、『最新歌舞伎大事典』、東京、柏書房
- \* 2012・09・10 提言「もう一度文楽を“聴いて”みる」、『上方芸能』185号 (特集「聴く」文化を楽しむ 養う) pp.37～39
- \* 2013・01・06 解説「文楽」、(朝日新聞 ニュースの本棚)

## ◆プロデュース活動

- \* 2012・11・10 企画・監修「伝統演劇・文楽」三業の実演と解説・講義 京都造形芸術大学通信教育部 総合教育科目、国立文楽劇場

## ◆講演・口述・解説活動

- \* 2012・07・08 解説・司会「山車文楽とからくり」山車文楽・からくり公演、知立市文化会館 パティオ花しょうぶホール
- \* 2013・01・10 解説・司会「義太夫三味線の表現」第8回 伝音セミナー
- \* 2013・01・31 意見口述「文楽の組織と活動」(伝統芸能の保存に関する意見交換会)、文化庁

## ◆講義・講座活動

- \* 2012・06・12 「文楽入門—太夫・三味線」関西学院 総合講座、関西学院
- \* 2012・06・19 「同上一企画・制作」同上
- \* 2012・06・26 「同上一人形三人遣い」同上
- \* 2012・11・10 「文楽の制作とは」京都造形芸術大学通信教育部 総合教育科目講座 国立文楽劇場
- \* 2012・12・12 「中世芸能から近世芸能への展開—人形浄瑠璃・文楽」シニアシティカレッジ・アドバンス、大阪教育大学天王寺キャンパス

## ◆調査・取材活動

- \* 2012・06・02～03 讃岐源之丞座他伝統民俗芸能(香川県三豊市)調査
- \* 2012・07・27 小浜 神宮寺他 調査
- \* 2012・09・03 安乗人形浄瑠璃首修理指導(東大阪 工房雅)調査
- \* 2013・01・26～27 讃岐源之丞座他伝統民俗芸能(香川県三豊市)調査

## ◆学内活動

京都市立芸術大学理事

## ◆対外活動

- \* 京都大学地球環境学堂三才学林 運営懇話会委員
- \* 三重県志摩市教育委員会 安乗人形芝居検討委員会委員
- \* 京都和文華の会 理事 他

## 田鍬 智志

## ◆著作活動

- \* 「平家物語の音楽—平安・鎌倉時代の雅楽はこんな曲!?—」、当センターホームページ、平成 24 年度学内特別助成による研究報告。

## ◆講演(演奏)活動

- \* 2012・10・13 本学音楽学部オープンスクール 日本伝統音楽特別講座「平家物語の音楽～平安・鎌倉時代の雅楽はこんな曲!?」、於本学講堂、曲目：〈想夫恋〉〈皇霊急〉(兼平成 24 年度学内特別助成)

による活動)。

- \* 2012・11・24 荻野検校顕彰会・朝日カルチャーセンター名古屋教室共催「高倉天皇の寵姫 小督を偲ぶ一芸能と遺品拝観―清盛に追われた悲運の美女哀話」、平等寺因幡堂客殿、曲目：〈想夫恋〉(楽拍子／只拍子／極楽声歌つき)。プログラム解説「雅楽 想夫恋 解説」、荻野検校顕彰会編『会報よつのを』創刊号、pp.11-12。

- \* 2013・2・11 近畿民俗学会年次大会 基調報告「田鍬家じいちゃんの位牌は仲間はずれ―逆縁墮獄の難からのがれる術を中世に学ぶ―」、同大会座談会(佐島隆・田中明・坂井田あすか・田鍬)「ムカシのことを忘れたか!」、大阪市歴史博物館 4 階第 1 研修室。

#### ◆講座・講義活動

- \* 2012・4～7 日本音楽史 I、京都市立芸術大学音楽学部。
- \* 2012・10・17～10・31 「雅楽よもやま噺～音と文字からのアプローチ～」(ほか三島暁子氏)、平成 24 年度でんおん連続講座 C、全 5 日、日本伝統音楽研究センター。
- \* 2013・2・7 「昭和後期の“現代音楽”発掘」、平成 24 年度後期でんおんセミナー。

#### ◆調査・取材活動

- \* 2012・05～2013・03 大阪市生野区個人蔵盆踊り音頭関係録音資料調査、大阪府教育委員会事務局文化財保護課「大阪府盆踊り音頭調査」。
- \* 2012・8・11～16 十津川村の盆踊り(小原・武蔵・西川〔重里〕ほか村内各地区の盆踊り)詳細調査、奈良県教育委員会文化財保存課・文化庁『奈良県民俗芸能緊急調査』。
- \* 2012・8・19～20 国立歴史民俗博物館蔵辻家雅楽関係資料調査、共同研究「雅楽(舞楽)および関連芸能のいまとむかし」に関わる調査。
- \* 2012・12～2013・3 東佐味六斎念仏調査、文化庁・奈良県教育委員会文化財保存課『奈良県民俗芸能緊急調査』。
- \* 2013・2・23 国栖奏伝承状況調査、共同研究に関わる調査。

#### ◆その他の活動

- \* 2013・3・10 誠心院管絃講、於東北寺誠心院、曲目：〈想夫恋〉〈五常楽急〉〈皇靈急〉〈陪臚(只拍子)〉〈郎君子〉〈西方楽(更衣)〉〈西方楽(八句念仏)〉〈(双調)酒胡子〉〈(双調)鳥急〉〈(双調)賀殿急〉(平成 24 年度学内特別助成による活動)。

#### ◆学内活動

- \* 附属図書館運営委員会
- \* 自己点検・評価委員会

## 竹内 有一

#### ◆著作活動

- \* 2013.03.31 編著『常磐津節演奏者名鑑 第 2 巻―近世 2：創流期から幕末期までの三味線方―』(常磐津節演奏者の経歴に関する調査報告書 2012 年度、文化庁補助事業)、常磐津節保存会、110pp
- \* 2012.07.25 共著『最新歌舞伎大事典』、柏書房、570pp(計 44 の項目執筆)
- \* 2012.11.15 研究ノート「歌舞伎の演奏者を知るための興行資料」、(社)伝統歌舞伎保存会編『平成 24 年版 歌舞伎に携わる演奏家名鑑』、(社)伝統歌舞伎保存会、pp.22-28
- \* 2013.03.31 企画・構成・解説文 ビデオディスク『長唄の美と魅力―表現を生み出すカー』(第 32 回公開講座記録映像)、日本伝統音楽研究センター、DVD 版／Blu-ray 版(詳細別掲)
- \* 2013.02.03 共編『黒御簾音楽を探る一芸談と資料研究―』パンフレット、日本伝統音楽研究センター第 35 回公開講座、64pp
- \* 2012.11.10 共編・レイアウト『国立音楽大学附属図書館所蔵 竹内道敬文庫展覧』パンフレット、(社)東洋音楽学会第 63 回大会、28pp
- \* 2012.11.12 報告(博士論文発表：黒川真理恵「近世上方書林阿波屋一統の出版活動について―一宮古路節正本と「はやりうた」の唄本を中心に―」に対するコメント)『東洋音楽学会 東日本支部だより』30、p6
- \* 2012.05.12 解説「地歌舞：八島」「義太夫：伽羅先代萩」「地歌：御山獅子」「長唄舞踊：大原女」

「数え唄変奏曲」「尺八と十七弦のための峠花」「常磐津舞踊：祭りの花笠」「出演者素描」（10名）、国立文楽劇場第28回舞踊・邦楽公演『新進と花形による舞踊邦楽鑑賞会』パンフレット、日本芸術文化振興会、pp.1-6

- \* 2012.11.15 項目執筆「常磐津若音太夫」、(社) 伝統歌舞伎保存会編『平成24年版 歌舞伎に携わる演奏家名鑑』、(社) 伝統歌舞伎保存会、pp.183-184
- \* 2013.01.01 解説「一般社団法人への移行に向けて」『つどい』(社) 関西常磐津協会機関誌、pp.2-4

#### ◆口述活動

- \* 2013.02.03 構成・司会「黒御簾音楽を探る—芸談と資料研究—」、日本伝統音楽研究センター第35回公開講座、日本伝統音楽研究センター（詳細別掲）
- \* 2012.11.01 構成・解説「岡本文弥の新内節を聴く」、平成24年度第6回伝音セミナー、日本伝統音楽研究センター

〈講義・教育〉

- \* 2012.01.15-2012.01.22 講座「歌舞伎音楽入門—江戸と上方—」、平成24年度でんおん連続講座D、全3回、日本伝統音楽研究センター（詳細別掲）
  - \* 音楽学1（前期15回）、京都市立芸術大学美術学部
  - \* 京都文化学基礎演習Ⅲ（前期15回）、京都府立大学
  - \* 京都文化学基礎演習Ⅳ（後期15回）、京都府立大学
- 〈日本伝統音楽研究センター共同研究〉

- \* 共同研究「歌舞伎の地方—伝承と演出、歴史と現在—」研究代表者（詳細別掲）
- \* プロジェクト研究「三味線音楽の音楽様式研究—町田佳馨の旋律型研究を中心に—」共同研究員（詳細別掲）

#### ◆調査・取材活動

- \* 常磐津節演奏者の経歴に関する調査（常磐津節保存会、文化庁補助事業）
- \* 常磐津節の伝承実態に関わる調査（日本学術振興会科学研究費補助金、研究課題番号225201445「豊後系浄瑠璃の伝承実態」研究代表者）
- \* 人形浄瑠璃文楽の音楽学的復元上演に関する基礎

的研究（日本学術振興会科学研究費補助金、研究課題番号24320042、研究分担者）

- \* 詞章本出版物（浄瑠璃本・うた本）等の書誌調査およびデータ作成
- \* 近世邦楽関連の近世版本の市場調査およびその収集・保存・公開に関わる調査
- \* 歌舞伎・文楽・邦楽・日本舞踊等の公演・稽古における演奏手法や伝承状況等の調査

#### ◆演奏活動（常磐津節浄瑠璃方）

- \* 2012.05.12 常磐津節・舞踊「祭りの花笠」、国立文楽劇場第28回舞踊・邦楽公演『新進と花形による舞踊邦楽鑑賞会』、国立文楽劇場
- \* 2012.06.01 常磐津節「積恋雪閑扉（下）」、NHK-FM「邦楽百番」
- \* 2012.10.27 常磐津節「お夏狂乱」「三保松」「大森彦七」「恨葛露濡衣」、関西常磐津協会第73回公演会、国立文楽劇場
- \* 2012.12 常磐津節・歌舞伎「廓文章」、顔見世大歌舞伎、京都南座
- \* 2013.01.27 常磐津節「子宝三番三」「花舞台霞の猿曳」「老松」、人間国宝常磐津一巴太夫の世界、可児市文化創造センター
- \* 2013.02.14 常磐津節「妹背山婦女庭訓」、常磐津節保存会講習会、京都芸術センター

#### ◆委員・役職等

- \* (社) 東洋音楽学会 理事（総務、西日本支部経理）、情報委員長

〈学内〉

- \* 広報委員会委員、情報管理委員会委員、など

#### ◆所属学会等

- \* (社) 東洋音楽学会、楽劇学会、近世文学会、芸能史研究会、歌舞伎学会、国際浮世絵学会、洋学史研究会、常磐津協会、(社) 関西常磐津協会

## 藤田 隆則

#### ◆著作活動

- \* 2012.07 紹介文「後藤静夫編『近代日本における音楽・芸能の再検討2』」『芸能史研究』198号、p.42

- \* 2012.10 『題目立への誘い—中世芸能と神事の世界』京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター主催第34回(平成24年度第1回)公開講座当日(2012年10月6日)配布パンフレット、全30p(このうち単著エッセイ「開催の趣旨」、校訂詞章「題目立〈巖島〉」を執筆)
- \* 2013.02 巻頭言「いまさら、いまこそ国際化」日本音楽学会西日本支部『支部通信』(電子媒体)第4号(通巻104号)、p1
- \* 2013.03 エッセイ「くすみ・訛り・摩滅を生きる—伝統音楽・芸能の思想」『京芸通信』Vol.016、p12
- \* 2013.03 論文「日本の古典音楽・芸能における身体への集中—型の具体性」菅原和孝編『身体化の人類学』世界思想社、pp.305-320

#### ◆口述活動

- \* 2012.4月~7月(毎週水曜日、全10回)講義「でんおん連続講座A 能の音楽の原型をさぐる—他のジャンルとの比較や演出資料を通じて」24年度前期 京都市:京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
- \* 2012.06.07 音源内容解説「謡の録音をきく」(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター前期セミナー(伝音セミナー)第2回)京都市:京都市立芸術大学
- \* 2012.07.25 講演「日本の伝統音楽への取り組みについて」京都市教育委員会主催、平成24年度(中・総)音楽科夏期研修講座、京都市:京都堀川音楽高等学校
- \* 2012.09.06 音源内容解説「能の囃子の録音をきく」(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター前期セミナー(伝音セミナー)第4回)京都市:京都市立芸術大学
- \* 2012.10.06 司会担当「題目立への誘い—中世芸能と神事の世界」、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター主催平成24年度第1回公開講座(通算第34回)、京都市:京都市立芸術大学
- \* 2012.10.13 司会担当「日本伝統音楽特別講座」京都市立芸術大学音楽学部オープンスクール、京都市:京都市立芸術大学

- \* 2012.11.25 シンポジウムにおける研究発表「芸道の実践と中世音曲の訛り(摩滅)—その宗教性」日本音楽学会第63回全国大会(主催:京都市立芸術大学)、京都市:浄土真宗本願寺派聞法会館
- \* 2013.02.24 上演に先立つ解説「忠度と胡蝶について」金剛定期能、京都市:金剛能楽堂
- \* 2013.03.23 Presentation, "Performing Arts and Voice: The Celebratory Strong Voice Mode in Noh Drama." The 2013 Association for Asian Studies (AAS) Annual Conference (March 21-24), USA: San Diego.

#### ◆プロデュース活動

- \* 2012.10.06 「題目立への誘い—中世芸能と神事の世界」、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター主催平成24年度第1回公開講座(通算第34回)、京都市:京都市立芸術大学
- \* 2012.6月-11月 日本音楽学会第63回全国大会実行委員会事務局、京都:浄土真宗本願寺派聞法会館

#### ◆調査・取材活動

- \* 継続中 謡曲・能の囃子の伝承にかかわる調査

#### ◆学内活動

- \* 国際交流委員会委員
- \* 学術交流推進委員会委員
- \* 京都市立芸術大学音楽学部(および大学院音楽研究科)非常勤講師(2012.04-2013.03)

#### ◆対外活動

- \* 本願寺教学伝道研究センター委嘱研究員
- \* 日本音楽学会西日本支部委員(および西日本支部事務局担当)
- \* 早稲田大学演劇博物館客員研究員
- \* 神戸女学院大学音楽学部非常勤講師(2012.09-2013.03)
- \* 滋賀大学教育学部非常勤講師(2012.04-2012.09)
- \* 所属学会 日本音楽学会、楽劇学会、東洋音楽学会、能楽学会、音楽教育学会、芸能史研究会、International Council for Traditional Music, Society for Ethnomusicology

## 山田 智恵子

### ◆著作活動

- \* 2012.06.10 提言「二つの危機」、『季刊上方芸能』第184号特集「文楽を守れ！—132氏からの熱いメッセージ」、p 41
  - \* 2012.09.10 論説「聴く力を育てる」、『季刊上方芸能』第185号特集「『聴く』文化を楽しむ養う」、pp.40-43
  - \* 2012.09 研究発表要旨（大久保真利子、吉野雪子との共同発表における代表者要旨）「町田佳聲『三味線声曲における旋律型の研究』の再検証」、東洋音楽学会第63回大会プログラム、p 28
  - \* 2013.01 紹介文（題名なし、DVDパッケージ表紙の文言）、『DVD 義太夫節稀曲の復活』京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
  - \* 2013.01 DVD・ブルーレイ共通付録対談テキスト「青山館の音楽的特徴と伝承および復活の方法」、『DVD 義太夫節稀曲の復活』解説パンフレットの挟み込み付録、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター pp.1-4
- ### ◆口述活動
- \* 2012.04-07（毎週水曜日、全10回）講義「でんおん連続講座B 義太夫節の音楽としてのしくみを理解する」平成24年度前期講座 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
  - \* 2012.05.20 研究発表「町田の義太夫節研究」日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究「三味線音楽の音楽様式研究—町田佳聲の旋律型研究を中心に—」第2回研究会、日本伝統音楽研究センター
  - \* 2012.06.17 研究発表「町田『三味線声曲における旋律型の研究』再検証その1」日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究 第3回研究会
  - \* 2012.08.28 研究発表「義太夫節における『ことば』と『ふし』」日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究第6回研究会
  - \* 2012.10.07 研究発表「プロジェクト研究の概要・目的・研究方法」日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究第8回研究会
- \* 2012.10.28 研究発表「町田の義太夫節研究を読み解く」日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究第9回研究会、東京工業大学大岡山キャンパス外国語研究教育センター大会議室
  - \* 2012.11.10 研究発表「共同研究の概要と目的および研究方法」町田の義太夫節研究を読み解く」東洋音楽学会第63回大会における大久保真利子、吉野雪子との「共同発表」、国立音楽大学〈講義・教育〉
  - \* 音楽学特講h（前期15回）、京都市立芸術大学音楽学部、大学院音楽研究科
  - \* 日本音楽史Ⅱ（後期15回）、京都市立芸術大学音楽学部
  - \* 伝統芸能演習Ⅰ-3「邦楽入門」（5コマ、1日）京都造形芸術大学通信教育部和の伝統文化コース、スクーリング。
  - \* 第25期文楽研修における講義「義太夫節」（不定期、10回程度）独立行政法人日本芸術文化振興会、国立文楽劇場企画制作課養成係
- ### ◆調査・取材活動
- \* 義太夫節の音楽的研究に関する朱入り本（通し本、抜き本）等の調査（日本学術振興会科学研究費助成事業、基盤研究（B）研究課題番号24320042「人形浄瑠璃文楽の音楽学的復元上演に関する基礎的研究」研究代表者）
  - \* 継続中 近代における三味線音楽の五線譜化についての調査
  - \* 継続中 プロジェクト研究「三味線音楽の音楽様式研究—町田佳聲の旋律型研究を中心に—」に係わる町田遺品調査
- ### ◆学内活動
- \* 京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師（2012.04-2013.03）
  - \* 京都市立芸術大学教育研究審議委員会委員
  - \* ギャラリーアクア運営委員会委員
  - \* 京都市立芸術大学キャンパス・ハラスメント防止対策委員会委員
- ### ◆対外活動
- \* 公益財団法人文楽協会評議員
  - \* 独立行政法人日本芸術文化振興会伝統芸能伝承者



養成研修講師

\* 京都造形芸術大学非常勤講師 (2012.04-09)

\* 清元協会会員

\* 一般社団法人東洋音楽学会支部委員 (2012.11~)

◆所属学会

日本音楽学会、楽劇学会、東洋音楽学会

日本伝統音楽研究センター研究紀要

## 『日本伝統音楽研究』

『日本伝統音楽研究』は、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターの研究紀要として同研究センターが発行する、年刊の学術刊行物である。

掲載内容は、日本およびその関連諸地域の伝統音楽・芸能に関する、論文・研究ノート・調査報告・資料紹介等である。

執筆者は、当研究センターの所員ならびにセンターが承認した研究者とする。

投稿には査読を実施する。

投稿に関する委細は、別途、「投稿規定」によって定め、周知する。

日本伝統音楽研究センター学術委員会

(後藤静夫、田井竜一、田鍛智志、竹内有一、藤田隆則、山田智恵子)

## 編集後記

平成 24 年度に当センター研究紀要および所報の編集・発行の形態と方法を見直しました。その結果、平成 25 年度（本誌本号）より、以下のような変更を実施しました。

- ・研究紀要と所報を一体化し、編集発行の合理化を図る。従来の所報は既刊分（13 号まで）をもって廃刊。
- ・当該年度分の原稿の編集は、当該年度末までに行い、発行は、翌年度の 6 月末を目途とする。
- ・版型を A4 に拡大し、割付に余裕を持たせて読みやすさの向上をはかり、図版・作表等のレイアウトの柔軟性を高める。
- ・横組み中心の体裁に変更（オモテ表紙を右綴じ側から左綴じ側に変更）。横組の投稿が多いため、また、所報との一体化により彙報部分の編集レイアウトを容易にするため。
- ・目次・ノンブル等の簡略化。

また、表紙レイアウトの変更も検討し、旧所報の意匠を取り入れる折衷案、写真の掲示等も考えましたが、研究紀要の「顔」としての継続性を重視しようということで、大きな変更は見送りました。

所長対談では、肥田皓三先生ならびに会場の小林一三旧邸「雅俗山荘」（現在は邸宅レストランとして営業中）の皆さまにたいへんお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

本学は、平成 24 年度より公立大学法人になりましたが、さらに平成 25 年度から、本研究センター所員が中心となり、本学大学院音楽研究科において新専攻「日本音楽研究専攻」が開設されました。新専攻に迎えられた院生たちが、この研究紀要に投稿できる研究者として育ち羽ばたくことを期待したいと思います。今後とも皆さま方のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

学術委員長 竹内 有一